



Christian Conference of Asia

an organ and fellowship of churches and ecumenical councils in asia for initiating and facilitating dynamic christian witness and action

CCA はインドネシア、スラバヤにおける3教会への攻撃を非難します¹

Posted on May 14th, 2018

アジア・キリスト教協議会（CCA）は、5月13日の日曜日にインドネシア第二の都市スラバヤの3つの教会を標的とし、14名が死亡し、40名以上が負傷した自爆テロを含む爆弾による攻撃を非難しました。

CCA総幹事のマシューズ・ジョージ・チュナカラは、犠牲者の家族に対する深い哀悼の意を示し、攻撃が主日礼拝に礼拝していた教会に対して行われたことについて、いかなる宗教によっても正当と認められない非道な犯罪行為であると述べています。

3つの爆発は、スラバヤ市内や近郊に位置するサンタマリア・カトリック教会（STMB）、ディポネゴロ・インドネシアキリスト教会（GKI）、スラバヤ・ペンテコステ教会（GPPS）で起こりました。

宗教的、民族的、文化的な分け隔てやアイデンティティの違いにかかわらず、人々や共同体の間で、寛容、調和、一致を育むというインドネシアの伝統の名声ある歴史を思い起こす一方、CCA総幹事は、「スラバヤの教会に対する攻撃は、インドネシアにおける悪しき勢力による意図的な試みです。かの国が長く育み、大切にしてきた宗教的調和という価値観や、長きにわたって守り続けてきた、宗教的多元主義を受け入れ、多様性の中の一致を呼びかける『パンチャシラ²』原則の破壊を目的とするものです」と述べています。

CCA総幹事は、加盟する教会、信徒たちにメッセージを伝え、暴力を前にしても冷静を保つよう促し、こうした状況に対処する責任は政府に任せておかなければならないと念を押す、インドネシア教会コミュニオン（PGI）の指導部による反応に感謝しています。

長きにわたって「寛容なイスラームの国家」と見なされてきた、世界最大のムスリム多数派の国インドネシアは、近ごろ、交戦状態の再燃、宗教的過激主義、テロリズムを経験しています。しかしながら、現在のインドネシア政府は宗教的寛容の促進や、暴力、宗教的過激主義、テロリズムの撲滅に対する固い決意を表明しています。

翻訳：藤原佐和子（CCA常議員）

¹ <http://cca.org.hk/home/news-and-events/cca-condemns-attacks-on-churches-in-surabaya-indonesia/>, accessed on May 14, 2018. “CCA condemns attacks on Churches in Surabaya, Indonesia”

² インドネシアの国是となっている建国五原則をいう。